

# 歴史を歩いてみよう



## 保土ヶ谷宿

保土ヶ谷宿は、慶長6年（1601）東海道に宿駅の制度が定められた際に、幕府公認の宿場として誕生しました。江戸から約33Km（8里9丁）で品川・川崎・神奈川に続く4番目の宿場です。

宿場が担う役割は、荷物の運搬に要する人馬などの継ぎ立てや旅人の休泊施設の提供、飛脚の業務などがありました。

街道は、幕府によってすべて管轄が定められていました。保土ヶ谷宿は、芝生村追分（現在の西区との境）から、境木地蔵（現在の戸塚区との境）までの約5Kmで、追分から北は神奈川宿、境木地蔵より南は戸塚宿の管轄でした。

宿場としての街並みを整えていたのは、約2Kmの間で、この間は宿内と呼ばれました。宿内には、本陣を中心に旅籠や茶屋、商店が立ち並び、宿場町としてにぎわいをみせていました。

保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部 ほどがやガイドボランティアの会  
保土ヶ谷区役所

### 24. 境木地蔵尊 →

創建は江戸初期（1659年）江戸からの講中や道中の安全を祈る旅人が多く参拝した。現在のお堂は関東大震災後、再建された。



### 23. 境木立場跡 →

保土ヶ谷宿からも戸塚宿からも難所の坂を上り詰めたところに、旅人や馬が休息するための立場が設けられ、数件の茶屋があった。その内の1軒が現存し、明治天皇も休息された。



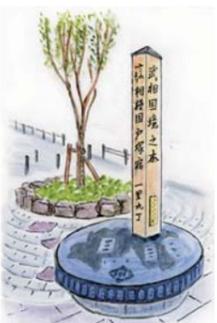
### ↑ 21. 権太坂

昔は今より急坂で江戸からの旅人がはじめて出会う難所であった。一番坂と二番坂があり松並木が続き景色も良く富士が眺められた。



### 19. 樹源寺

鎌倉時代に建てられた医王寺が焼失した後、江戸時代初期（1628年）に蒔部家により新延山久遠寺の末寺として開山した。庭園が美しい。日蓮宗。 ↓



### ← 25. 武相国境モニュメント

この地が武蔵国（保土ヶ谷宿）と相模国（戸塚宿）の境であり、昔は木の杭が立てられていたのが境木という。このモニュメントは平成17年に設置された。



### 26. 萩原代官屋敷跡 →

萩原家は平戸の領主で代々旗本杉浦越前守の代官をつとめ、幕末の頃にはこの場所に道場を開いた。今は武家屋敷門と倉が残る。



### 20. 帝釈天と旧元町橋跡 →

昔、今井川は帝釈天の祠のある山裾に沿って流れ、祠の下あたりに旧元町橋があった。今の元町橋は川筋を変えた後のもの。

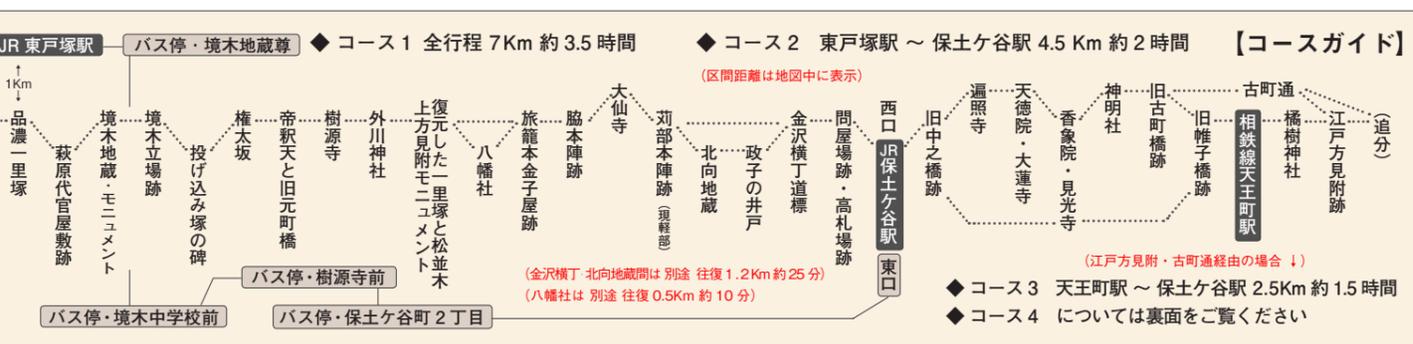


### 「宿場の施設とその役割」

- 【旅籠】** 一般の旅人が宿泊した。飯盛り宿と平宿の区分があった。
- 【茶屋】** 旅人の休息のための店。
- 【問屋場】** 公用旅行者の荷物の運搬（馬継立）や飛脚の業務を取り扱うところ。
- 【本陣】** 本陣に匹敵する規模の茶屋で、宿泊しない大名などが休憩した。

- 【助郷会所】** 宿場で賄いきれない人馬を周囲の村から動員する「助郷」という制度があり、その話所である。
- 【高札場】** 幕府の掟やお触れを張り出す所で宿泊代や人馬代も示されていた。
- 【一里塚】** 街道の両側に行程の目安として、一里ごとに小高く盛り土をして木を植えたもの。

- 【見附】** 宿場の門の役目で上方見附と江戸方見附がありその間を「宿内」という。要人を宿役人が見附で迎え、大名行列はここから威儀を正して進んだ。（見付とも）



### 案内サインの種類と地図記号

- ★ 総合案内板 ↓
- ⊙ 史跡説明板 ↓
- ◆ 標柱 ↓

← 番号付きの史跡は本ガイドに説明文があります。  
↑ ← 000m ↑ ← 区間距離を示します。（誤差：±10m）

- ◆ 発行 横浜市保土ヶ谷区役所 区政推進課  
〒240-0001 保土ヶ谷区川辺町2-9 TEL: 045-334-6227 FAX: 045-333-7945
- ◆ 製作 構成：飯塚 充 挿絵：村田啓輔
- ◆ 協力 保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部 ほどがやガイドボランティアの会  
発行年：平成18年3月初版 平成20年3月第2版  
平成23年1月第3版

【紙ヘリサイクル可】